

いばらのほな

此花をつみとり、らん引にかくる、かくのごとき器也。○圖中に湯を入れてわかし、其上へかの花をいれ、其湯氣上の器にたまり、口より露出るを茶碗にうけて取る也、扱此露を除け、

丁子 片腦 白檀

をらん引にかけ、此香具の香ひをとり、いばらの花の露に少し入て用ゆる也、

らん引を用ひずして花の露をとるには

薬罐に水を入、上の蓋をあをのけにして、其真中の高き所へ花をのせ、大きな茶わんを其上へふせをき、炭火にかけ、薬罐の水、湯となりて花を蒸がゆへ、花の露、上の茶碗にたまり、又また、り落て薬罐の縁へ流れ落るを取也、ふたの茶碗の上へ別の茶碗に水を入のせをくべし。○圖

〔諺話浮世風呂三編上〕

●ハイ只今は二丁目の式亭で賣ます。○延壽丹

▲エ、何か子、このごろはや

る江戸の水とやら、白粉のよくなる薬を出す内でございます。●ハイさやうでございます。私どもの娘なども、江戸の水がよいと申で、化粧の度につけますのさなる程、顔のでき物などもなほりまして、白粉のうつりが奇麗でございます。▲私どものりんが田舎育だけに、根から白粉がのりませんが、成ほどよくのります、嫁などもつけますが、子、翌の朝、顔を洗った跡で、ちよいと紙で拭ますと、薄化粧でもいたしたやうに、きのふの白粉が出るさうでございます。種々な調法な事が出来すよ子エ、

〔江戸名物狂詩選〕三馬江戸水

本町二丁目

近年三馬大流行、徳利往來店不遑、賣出繁昌江戸水、粧成八百八町娘、

松本蘭奢水。○住吉町

賣出一方蘭奢水、鬢付鉛粉製尤芳、家名松本紋銀杏、看板彫成岩戸香、